

日本労働年鑑 第51集 1981年版

The Labour Year Book of Japan 1981

第一部 労働者状態

IV 合理化の現状と労働災害・職業病

3 労働災害・職業病

2 職業病

産業別種類別発生状況

業務上疾病にかんする労働省統計は、七八年までしか発表されていない。そのかぎりで若干の特徴をみておこう(第46表)。まず発生件数は、景気停滞下でも増大傾向にあり、七五年二万四九五三件、七六年二万五七九六件、七七年二万七二五六件、七八年二万七四五六件と推移している。七八年の発生件数を産業別にみると、製造業一萬一九二件が断然多く、ついで建設業五七八〇件、交通運輸業三五九四件となっている。

つぎに、疾病の種類別にみると、負傷に起因する疾病一万四四〇八件と断然多く、ついで熱傷・凍傷三五〇七件、重激業務による運動器の疾病二四一七件、高熱・ガス・光線等による眼の疾病二二一四件、じん肺症一一〇九件となっている。また、負傷に起因する疾病、重激業務による運動器の疾病などのなかで、近年、いちじるしく問題化している腰痛の多いことが目をひく。七七年に一万の大台にのり、七八年には一萬一五七八件と、さらに増えている。しかも産業を問わず、いずれの産業にもまたがって発生しているのが特徴である。

職業病と疲労・健康障害の増大

最近では、産業、職業を問わず、精神・神経疲労をふくむ身体各部に多様な症状を現わす疾病、たとえば過労性の腰痛、頸肩腕症候群、自律神経失調症などが発生している。また振動による神経炎なども、たとえば林業の白ろう病のように問題化している。さらに、じん肺症の増大、潜函病(減圧症)、一酸化炭素中毒、酸欠症、そして最近、重大問題としてクローズアップされているものに、各種の職業性がんがある。

そして全体として、いわゆる「合理化」病がひろがっている。その広大なすそ野を形成しているものとしての疲労・健康障害の増大、慢性化傾向に改めて留意すべきであろう。近年、そうした点にかんがみ、各種組合調査も盛んにおこなわれている。春闘共闘も七九年七月、「労災・職業病防止討論集会」を組織し、対策を強めた。

また労災・職業病の補償、認定、救済闘争も、しだいに活発化の気運にある。制度要求の一環でもあるが、いずれにしても、やむにやまれぬ闘争として、その前途が注目される。総評も、七九年七月二三日、「労働災害や職業病による被災者の増大のもとで、これら被災労働者およびその家族・遺族の生活改善などのために」、「法令の改正、法令運用上の改善などの措置の要求」を、労働大臣宛におこなっている。

【参考資料】(1)労働省「昭和五四年労働経済の分析」、日本労働協会編『昭和五五年版・労働運動白書』、(2)『総評調査月報』、総評「労働ニュース」、電機労連第二八回大会関係資料、『全通時報』、『こくろう調査』、(3)『賃金と社会保障』、『月刊いのち』、『経済』『月刊労働組合』、『労政時報』

日本労働年鑑 第51集 1981年版

発行 1980年11月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

労働旬報社

* * * * 年 * * 月 * * 日公開開始

■←前のページ 日本労働年鑑 1981年版(第51集)【目次】次のページ→■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
